まんのう町教育委員会だより

爽風（そうふう）

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 42

令和6年【2024】
4月1日 発行

特集　ICTが文房具になる日

Contents

P.6～7　園・学校ウォッチング　四条小学校・高篠こども園
P.8　次年度に向けて着実に
P.9　シリーズ「声」
P.10　ホッとニュース
P.11　誰一人取り残されない学びの保障に向けて

ICTが文房具になる日

～ ICTの効果的活用で学びの主役を子どもに ～

一人1台端末の実現

GIGAスクール構想により一人1台端末が実現したのは、今からちょうど3年前のこと。これにより、子どもたちにとってタブレット端末は、「決められた場所に保管しておくもの」から「常に手元に置いておくもの」へ、「友だちと共有で使うもの」から「自分だけで使えるもの」へと変化し、積極的に使用することができるようになりました。

今、学校では、このタブレット端末のさらなる効果的な活用をめざして、様々な工夫が行われています。それは、子どもたちが、授業中、休み時間を問わず、他の文房具と同じように、必要なときに、教師の指示を待たず自分の判断で自由に使えるようにすること、さらには家庭への毎日の持ち帰りを可能にすること等をめざした取り組みです。

これからの子どもたちに必要な力とは

ところで、経済産業省が2022年に公表した『未来人材ビジョン』という資料があります。これは、経済産業省が設置した「未来人材会議」での議論をもとに、未来を支える人材を育成・確保するための大きな方向性と、今後取り組むべき具体策とをまとめたものです。

【資料1】は、「仕事に必要な能力等」を56の項目に整理したものです。意識・行動面に関わるものから知識に関わるものまでを含む整理体系として、最も網羅的だと言われています。そして、デジタル化・脱炭素化が進む将来（2050年）において、これら56の能力等のうちどの能力等が求められるか（需要）を推計し、現在（2015年時点）と比較したのが【資料2】です。

これを見ると、「注意深さ・ミスがないこと」「責任感・まじめさ」といった、「与えられた業務をきちんとこなすことができる」人材が求められていた2015年に対し、基本的な事務や販売等の業務をミスなく効率的に遂行する役割がAIやロボットに置き換わる可能性が高い2050年には、「問題発見力」「的確な予測」「革新性」などが求められると推計されています。

一人1台端末が可能にすること

では、このようなな力は、どのようにして育つのでしょうか。「知識伝達型」の受け身の授業では、到底難しいでしょう。こうした人材を育てるためには、子どもが主役となる「学びの変革」が必須です。一人1台端末は、その実現の一端を担うことが期待できるのです。

AI教材の活用は、知識の習得や反復学習を効率化することができ、その分、子どもが多様な他者と協働しながら主体的に課題を解決していく、探究型の学びの時間を増やすことに役立ちます。また、一人1台端末は、これまで一律だったドリル学習を自分の力に合わせて行うことができるなど、学びの自律化、個別最適化を可能にし、誰一人取り残さず、留め置きもしない学びの実現につながるのです。

前述の『未来人材ビジョン』には、**「新たな未来を牽引する人材は『育てられる』のではなく、ある一定の環境の中で『自ら育つ』」**という視点が重要」と書かれています。子どもたちが夢中になって取り組み、「新たな価値」やこれまでにない「新しい解」を創り出していくことのできる、そんな学びの環境をいかに設定していくか、それが重要だということでしょう。

2022年には※対話型AI「ChatGPT」が登場するなど、デジタルは、ますます進化を続けています。学校は、これらを柔軟に受け入れながら、子どもが主役となる学びを推進していかなければなりません。

※高度なAI技術によって、人間のように自然な会話ができるAIチャットサービスのこと

【資料2】

求められる能力等（56の能力等に対する需要）

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル※	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性※	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

（注）各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。

（出所）2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究II」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum "The future of jobs report 2020", Hasan Bakhshi et al.,"The future of skills: Employment in 2030"等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。

【資料1】

意識・行動面を含めた仕事に必要な能力等（56項目）

意識、行動面	ビジネス力	スキル	知識
意欲・積極性	情報収集	基盤スキル	科学・技術
自発性	状況変化の把握	学習スキル	化学・生物学
ねばり強さ	的確な予測	数理スキル	芸術・人文
向上心・探究心	的確な決定	言語スキル：文章	医療・保健
責任感・まじめさ	問題発見力	言語スキル：口頭	ビジネス・経営
信頼感・誠実さ	ビジネス創造	テクニカルスキル	外国語
人に好かれること	革新性	ヒューマンスキル	土木・建築
リーダーシップ	戦略性	コンピュータスキル	警備・保安
協調性	客観視	モノ等管理スキル	
柔軟性	説明力	資金管理スキル	
注意深さ・ミスがないこと	交渉力	段取りのスキル	
スピード	**基礎的機能**	**その他**	
社会常識・マナー	基本機能	仕事に関係する人脈	
身だしなみ・清潔感	知的機能	資金力	
体力・スタミナ	感覚機能	仕事に関係する免許・資格	
ストレス耐性	運動機能	現在の仕事に特有な知識や経験	
社会人、職業人としての自覚			
現在の職業に特有の態度・行動			

（出所）独立行政法人労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究II」（2015）を基に経済産業省が作成。

出典：経済産業省「未来人材ビジョン」（2022年5月）

ICTの
デメリットから守る教育

使用を大人が制限する

約束をきちんと守って使わないと、危険だよ

から

LINEは、友だちとのトラブルにつながるから禁止しなくては！

自由にさせたら、ネットで変なものを見ないかしら…。

ネットいじめが心配だな。

タブレットを家に持って帰っているんだけど、本当に勉強に使っているのかな。不安だわ…。

授業参観に行ってきたけど、以前のように元気に手を挙げて発表する場面が少なかったなあ。

授業参観は、タブレットの画面を見ながらキーボードを打ってばかりの授業だったわ。大丈夫かな。

様々な心配が生まれます。

「ICTを使った学び」の経験があまりない
保護者をはじめとする大人

ICTの
メリットを積極的に生かす教育

使い方を子どもが考える

正しく安全に活用できるようになり、社会をよくするために役立てよう
（デジタルを積極的に使って社会に参画する力のことを、「デジタルシチズンシップ」といいます）

へ

デジタルネイティブ世代の子どもたち

危険性だけを指摘して、抑制したり制約をかけたりするだけでは不十分です。子どもたちは、年齢が上がれば親がなんと言おうと、LINEを使うでしょう。X（旧Twitter）も見るでしょうし、発信する側にもなるでしょう。

ですから子どもたちには、大人が決めた約束事を守らせるのではなく、積極的に、そして前向きにデジタル機器を使わせ、自ら考えて活用する力が育つよう、**当事者意識を育てていくことが大切なのです。**

デジタルネイティブ世代とは

ごく幼いころからデジタル機器に触れて育ち、SNSなどのソーシャルメディアをコミュニケーションの道具として日常的に利用している世代のことで、おおむね1990年以降に生まれた人を、こう呼ぶことが多いようです。

朝学校に来たら、タブレット端末はいつでも使えるよう机の横へ

朝の始業前、進んでタイピング練習

アプリを使い、自分の力に合わせて朝ドリルに取り組む

記録はすぐに、写真で正確に

※ここで紹介した事例は、町内すべての学校で同じように行われているものではありません。取り組み方は、それぞれ学校の実情により異なります。

一緒に作業

自分が選んだドリルやゲーム、お絵かきなどで雨の日の休み時間を楽しく

調べたいと思ったときは、すぐに検索

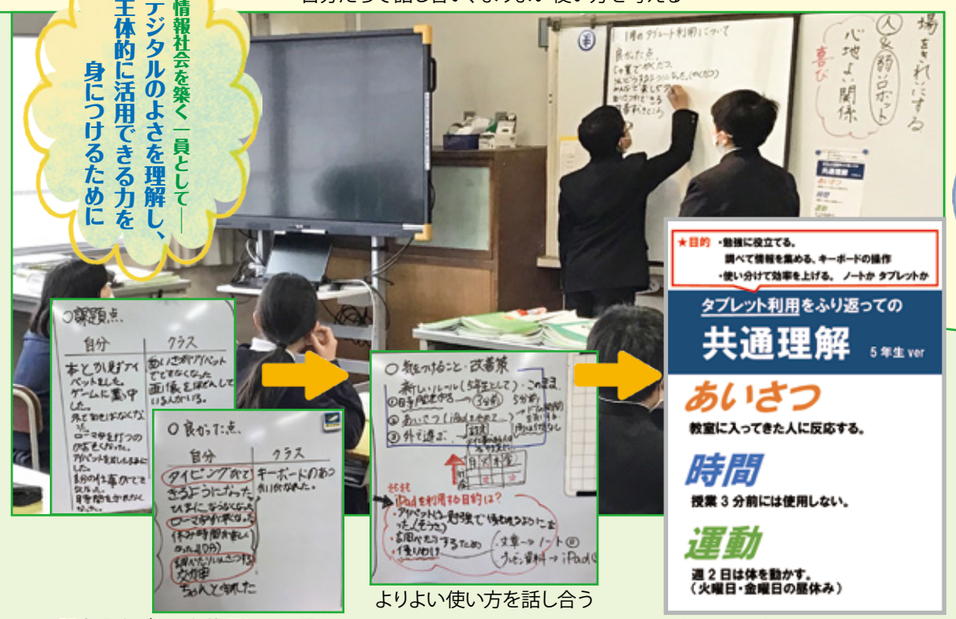
「切り貼り」や「やり直し」が楽に

筆記用具を持ち替えることなくラインを引いたり書き込んだり

友だちの考えを一覧で確認、互いに共有

自分たちで話し合い、よりよい使い方を考える

情報社会を築く一員として――
デジタルのよさを理解し、主体的に活用できる力を身につけるために



現在のタブレット使用について、よい点や課題を出し合う

よりよい使い方を話し合う

今後のタブレット使用について、「共通理解」したいことをまとめたもの

今 学校では…

ICTの日常的活用をめざす学びの姿

端末やソフトは定期的にアップデートされ、ICTは日々進化しています。ですから、その不適切な利用や機能について、学校がすべてを網羅的に把握し、先回りしてルール作りを行うことは、もはや不可能だと言えます。

園・学校ウオッチング

四条小学校では、子どもたちがよりよい学校をめざして、気づき、考え、実行したり、仲間と助け合ったりする自主的・自律的な活動を推進しています。

本年度の5月から新型コロナウィルスが5類へ移行となり、集会活動も本格的に再開されました。昨年度までは各教室をリモートでつないで行っていた朝会も、全校生が体育館に一堂に会して実施するようになりました。これをきっかけとして委員会などの児童会活動がさらに活性化しました。

「みんなで歩こう！」 ―廊下を歩こう運動―

廊下や階段でけがをする子が多いことを解決したいと運営委員会が、安全に楽しく過ごせる学校をめざして、次の方法で正しい廊下歩行を呼びかけました。

○全校朝会でのお知らせ
○ポスターなどの掲示物作成
○運営委員会が作詞した「みんなで歩こう」を、「さんぽ」(映画「となりのトトロ」)の曲にのせて録音し、昼休みに放送

♬「歩こう　歩こう　みんなで歩こう」♬

この曲が流れると、曲に合わせて楽しみながら廊下をゆっくり歩いたり、走りかけた足を緩めたりする姿が見られました。

掲示物も、児童の目に留まりやすい場所を考え、貼り方を工夫して作りました。

「ここにもあった！」
「気を付けないと」
楽しく掲示物を見ながら、廊下を正しく歩こうとする様子が見られました。

全校朝会でのお知らせ

階段の手すりに貼られた掲示物

よりよい学校をめざして 気づき 考え 実行する子どもたち 四条小学校

「みんなできれいにしよう！」 ―草抜きボランティア―

6月中旬、運動場にある花壇に草がたくさん生えてきました。それに気づいた飼育・緑化委員会が全校朝会でボランティアを募ったところ、昼休みにもかかわらず87名の児童が参加しました。

「うわっ、びっしりはえているな」
「よーし、抜くぞ！」
競い合いながら抜く子、黙々と取り組む子…。低学年から高学年まで一生懸命に活動しました。作業後、コンテナに2杯分集まった草ときれいになった花壇を見て、自然に拍手が起きました。

飼育・緑化委員会がお礼の気持ちを込めて、参加した児童の名前を掲示すると、「私も抜いたんだ」と誇らしそうに教えてくれる子が何人もいました。自分の頑張りやみんなのために役立ちたいという思いを認められたことが、とても嬉しかったようでした。

こんなにたくさん抜けたよ

草抜き参加者掲示を見る子どもたち
私の名前もあるよ

「自主・自律の気風を学年に」 ―リーダープロジェクト―

委員会などの児童会活動を起点とした自主・自律の動きを、低・中学年にも広げ、学校全体の気風にまで高めたいと始めたのが、『リーダープロジェクト』です。これは、各学年がよりよい学校をめざして「○○リーダー」となり、自分たちの言動を見つめ直したり、全校生に働きかけたりしていく活動です。

9月、学級や代表委員会で四条小学校のよさと改善点を話し合いました。それをもとに各学年で取り組みたいことを協議し、決まったのが次のリーダーです。

○1年生 あいさつリーダー
○2年生 たすけ合いリーダー
○3年生 なかよしリーダー
○4年生 親切リーダー
○5年生 もりあげリーダー
○6年生 安心リーダー

5年生は、学校行事を盛り上げようと「四条っ子フェスタ(学習発表会)まであと○日」(カウントダウン掲示)を作って知らせたり、各学年の発表の見どころを調べて放送したり、会場設営や掃除にも進んで取り組んだりしました。他学年から「もりあげリーダー、ありがとう」という声が盛んにあがっていました。

1月のなかよし集会では、各学年の取り組みと活動を通して学んだことや感じたことを発表しました。自分や仲間、そして集団の成長を共に味わうことができました。

もりあげリーダー(5年生)

活動を通して、多様な活躍の場を設定し互いに認め合う経験を重ねることで、子どもたちの自己肯定感や他を思う心を培っていきたいと考えています。

わくわくどきどきがいっぱい ―子どものやりたいを大切に― 高篠こども園

子どもも保育者も毎日がわくわく、元気いっぱい、優しさいっぱい、笑顔いっぱいの高篠こども園です。少人数のよさを生かして全園児を全職員で育てることを大切にしています。そして、一人一人のよさを認め合いつながり合って、子どもも大人も、ともに成長する園をめざしています。

つながり受け継がれていく命

毎年3学期になると、次の年度に向けて子どもたちは様々なことを引き継ぎます。新年度になった4月、放送当番や掃除当番などを引き継ぎ、張り切っている5歳児の姿がありました。

その中の一つがカブトムシの世話です。小さな小さな卵から少しずつ大きくなり幼虫になっていく様子を見ていた子どもたち。毎日登園するとすぐに、カブトムシの飼育ケースをのぞき、土の中の糞を取り除き餌をかえてあげる日々が続きました。「大きくなっとるな」「こっちにもおるで」と、土の中を探り霧吹きで水をかけていると、いつの間にか3歳児や4歳児の子どもたちも興味津々で「いっしょにしたい」「さわらせて」と、やってくるようになりました。大きい子から小さな子へ飼育の仕方が伝わっていっていました。時には、5歳児が世話を始めるのを待ちきれずに見に行くこともありました。

6月にはサナギに、7月には成虫になり、カブトムシを触ることにも慣れてきました。餌を食べる様子や初めて飛ぶ姿を見た子は、

「飛んだ」
「見て見て。上の方にいったよ」

と、驚いていました。なんと、カブトムシが産卵する様子も見ることができました。

餌を食べてね

しかし、その一方で図鑑を見た子どもたちは、もうすぐカブトムシが死んでしまうということも知りました。そこには、命の誕生のうれしさと死という寂しさを感じている子どもたちの姿がありました。

そんなある日、5歳児の子どもたちから「なんか歌いたいなあ」「カブトムシ♪」と、歌いだす声が聞こえてきました。歌を作ろうということになり、みんなで今まで飼育してきたことを思いだし、出来事などを歌詞にしていきました。「死んだことをいれようかな」という声もありました。子どもたちの心の中には、毎日世話をして仲間のように育てたカブトムシだからこそ、「死」ということが心に残ったのでしょう。歌詞が出来上がり、保育者と一緒にメロディーをつけ歌いました。虫探しをして、捕まえる楽しさから飼育することへ興味関心が深まり、命の大切さに気付くことができたようです。

その後も5歳児は、9月のチャレンジ保育で、虫のクイズを作ったり昆虫太極拳の体操をしたりしました。生活発表会でも、自分たちがカブトムシに扮し創作劇をして楽しみました。この経験は、きっと近くで見ていた3歳児・4歳児の子どもたちにも伝わり、カブトムシの命は受け継がれていくことと思います。

カブトムシのうた

一人一人の思いを大切に

うさちゃん(折り紙)ごはんどうぞ

3歳児、4歳児が「あお組、行ってきます」と言って行く姿があります。初めは、外から部屋の中を覗いていましたが、だんだんと部屋に入り、工作を作ったり折り紙を教えてもらったりするようになりました。

「あお組さんに教えてもらった」「作ってもらった」と嬉しそうに部屋に戻る子どもたち。そして、あお組さんからもらったちょっとしたアイディアを生かして3歳児、4歳児なりに遊びを楽しむ姿が見られます。5歳児さんは憧れの存在です。

時には逆のこともあります。カラーポリ袋で服を作っている4歳児の様子から、5歳児が自分たちもやってみようとイメージを膨らませて自分がなりたいもの、やりたいことを考えてコスチュームやお菓子を作り、10月には全園児でハロウィンを楽しみました。

保育者もイメージを膨らませ、子どもとともに心弾ませ、思いに寄り添い素材を提供して、遊びはクラスの枠を超えてつながっていきました。

みんなでハロウィン

少人数でみんなの顔が見えるからこそ思いがつながり、うれしい時も困った時も子どもも保育者も助け合えるよさを生かし、これからも一人一人の「やりたい」を大切にしていきたいと思います。

次年度に向けて　着実に

もうすぐ小学生！・中学生！！

学校紹介VTRに見入る

6年生が中学校を訪問

小学校６校がそれぞれ訪問しました。

校長先生から励ましの言葉をいただく

教頭先生の案内で校内（授業）を参観

1年生が5歳児を招待

小学校６校が校区のこども園児を招待しました。

絵本を読んであげるね

広い体育館で一緒に遊んだよ

手をつないで移動します

校長・園長の教育懇談会を開催

（仲南支所にて）

テーマ「重要課題解決に向けての今年度の取り組みと次年度の構想」 R6.1.25

テーマ「私の園経営～今年度の取り組みから次年度を考える～」 R5.12.19

『ゴジラだらけ』
高篠小２年　　小川　琉生

『うみの中のかくれんぼ』
満濃南小１年　　古川　智久

お詫びと訂正

前号（第41号）の「こども美術館」のコーナーに誤りがありました。関係する皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。正しい作品を掲載いたしました。

シリーズ『声』

第28回　春に思う・・・

春…長く厳しい冬を終え、桜をはじめいろいろな花々が咲き、四季の中でも明るく希望に溢れる季節。
そんな春に思うことを校長先生方に聞きました。
（職名は令和６年３月時点）

鶯の鳴く学校に勤めて

８年前、教頭として仲南小学校へ赴任しました。これまで、学級の子どもたちの賑やかな声に囲まれてスタートしていた朝は、職員室で一人パソコンと向かい合って書類を作る仕事に変わりました。なんだか寂しくて気分が落ち込みました。でも、提出書類の期限は迫っていて、気持ちだけが焦っていました。

そんな時、窓の外から鶯の鳴く声がしました。「ホーホケキョ」「ホーホケキョ」聞いているうちに心が癒されました。そして、ノートルダム清心学園元理事長の渡辺和子さんの「置かれた場所で咲きなさい」という言葉が頭に浮かんできました。「今の私がすることは、置かれている立場で自分の役割を果たすこと」と決意することができました。

その日から毎年、鶯の声を聴きながら仲南小学校で春を迎えました。これまでの日々を振り返りますと、学級担任をしていた時よりも多くの子どもたち、保護者、地域・関係機関の皆様と関わることができました。学級担任の時と比べて、その学級の児童や保護者と深く関わることはできていませんが、関わる方々が増え、幅が大きく広がったと思います。けれども、あの子は今日、元気に登校して来るかな、落ち着いて勉強に取り組んでいるかな、大縄跳びは跳べるようになったかなと、全ての子どもたちのことがとても気になっていました。子どもたちの成長を担任と共に喜び、悩みながら過ごしてきた日々はとても充実していました。

また、地域や関係機関の皆様には、たくさん助けていただきました。人と人とのつながりは本当に大切で、ありがたいことだと感謝しています。

子どもたちには、鶯の鳴くこのふるさと「仲南」を大切に思う心をもってほしいです。そして、この地域がいつまでも活気のある住みやすい町であってくれるといいと思っています。次の社会を守っていくのは、今の子どもたちです。子どもたちのこれからの成長と皆様の幸せをずっと願っています。

仲南小学校　校長　安藤　伸江

38回目の春に

校庭から見る阿讃の山々に霞がかかり、春らしい空気を感じる季節になりました。校庭の木々には色鮮やかなつぼみが開き始め、遠くに聞こえる鳥たちも春の訪れを楽しんでいるようです。教員になり38回目の春。これまでの「春」を振り返り、心に残る場面を素人の短歌で表現してみました。

風光る　梅の花咲く　学び舎を　巣立つ姿に　満つる希望

「春」はともに過ごした子どもたちとの別れの季節。「別れ」というと悲しい言葉に聞こえますが、春の別れは希望や期待を感じさせてくれるものです。特に、卒業を迎える子どもたちを送り出すときは格別です。晴れ晴れとした表情、頼もしい姿からは一人一人の成長と大きな期待を感じさせてくれます。「春」は子どもたちの成長と次への希望を感じさせてくれる季節です。

新入生　背中に踊る　ランドセル　溢れる希望　詰め込んで

「春」は出会いの季節です。色鮮やかな花が開き、花の香りが漂う春の空気。教室は真新しい制服の香りでいっぱいになります。その香りは希望に満ち溢れていて、新たなスタートへの期待を感じさせてくれます。まもなく小学校には、大きなランドセルに希望をいっぱい詰め込んだ1年生が入学します。希望に満ちた子どもたちとの出会いが楽しみです。

春は新しい学期の始まりであり、新たな出会いの季節です。「さあ、今年はどんな1年にしようか」これから始まる新たな春に期待を込めて、子どもたちとともにチャレンジしたいと思います。

満濃南小学校　校長　近井　英俊

第6回　MIEA英語朗読コンテスト

（R6.1.13：かりん会館）

※MIEA：まんのう町国際交流協会

今年で６回目を迎えたこの英語朗読コンテストは、あらかじめ提示された課題の英文を３分以内で朗読し、その発音や表現力を競うものです。今年は町内の小学校から４～６年生12名（４年生６名、５年生３名、６年生３名）が参加し、練習の成果を披露しました。

今年の課題は、“Special products of Manno”（まんのう町の特産品）でした。「まんのう町の特産品には、ひまわりやかりんに関連した物がたくさんあります。これらの特産品を紹介し、もっと多くの人にまんのう町のことを知ってもらいたい、町の未来について真剣に考えていきたい」という内容です。

審査の結果、右記の２名が優秀賞に選ばれました。

優秀賞

５年　髙木　美空　（四条小）
６年　道西あおい　（仲南小）

総合教育会議　（R6.1.29：仲南支所）

平成27年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会制度が新しくなりました。これに伴い新設された「総合教育会議」が、今年度も開催されました。

今回の総合教育会議では、第３期子ども・子育て支援事業計画、中学校部活動の地域移行などについて、活発に協議がなされました。

おしらせ　まんのう町立小・中学校第３子以降学校給食費無償化制度

令和6年1月より多子世帯の子育てに対する経済的負担軽減を図るため、第３子以降の義務教育期間におけるまんのう町立小・中学校の学校給食費が無償となりました。

無償化の対象となる要件

以下の①から③を全て満たしている保護者が無償化の対象となります。

① １世帯に子どもを３人以上扶養している。

② ①の子どものうち、上から第３番目以降の子どもがまんのう町立小・中学校で学校給食の提供を受けている。

③ 生活保護・就学援助制度で学校給食費の支援を受けていない。

◆無償化の対象となる児童生徒の例（　　が無償化の対象、丸囲み数字が扶養している子）

	第1子	第2子	第3子	第4子
例1	大学生①	高校生②	中学生③	小学生④
例2	無職①	専門学生②	中学生③	私立中学生④
例3	就労者（扶養外）	高校生①	中学生②	小学生③
例4	就労者（扶養内）①	就労者（扶養外）	中学生②	中学生③
例5	中学生①	小学生②	未就学児	

誰一人取り残されない学びの保障に向けて

少子化で児童生徒数は年々減少しているにもかかわらず、不登校の児童生徒は年々増え続けています。「不登校」とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間３０日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由によるものを除いたもの」と文部科学省の調査で定義されています。

その調査の最新の結果によると、令和４年度の香川県の不登校児童生徒数は、小学校５５８人、中学校１２８３人、高等学校３９３人で、前年度より３６８人増加しました。また、全国では小・中・高の児童生徒の合計が約３０万人になり過去最高となっています。

文部科学省は令和５年３月３１日付通知の「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）について」の中で、不登校児童生徒が学びたいと思った時に学べるように、教育支援センターの支援機能の強化やICT活用による教室以外での学習の実施などを示しています。なお、「不登校児童生徒への支援は、『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある」という基本的な考えは以前と変わっていません。

教員、保護者、地域それぞれが不登校を**正しく理解**し、一人一人の子どもに合わせて**柔軟に対応**していくことが、誰一人取り残されない学びの保障をすることになります。

不登校であるにもかかわらず、約３８％（全国）の児童生徒が学校内外の専門機関等で**相談・指導等を受けていないことが課題**となっています。

お困りのことがあれば、下記窓口などにご相談ください。

こんな目で見ていませんか？

- 不登校は特別な子どもがおちいるものではなく、誰にでも起こり得るものです。
- 不登校は、子どもが自らの心身を守るための行動でもあります。
- 「学校に行かなければならない」という思い込みが、学校を休むことで回復するはずの症状を悪化させ、結果として長期間、その子の学習の機会を奪う結果となります。

こんな思いをしているかもしれません。

不登校に関する相談窓口（まんのう町・香川県）

まんのう町

- **各小・中学校**
  担任・教頭・養護教諭など
  TEL：各小・中学校
- **町教育委員会 学校教育課**
  TEL：0877-89-7100

連絡・連携

○ いくむ（適応支援センター）
学校とは別の小集団での生活や活動を通して、主体性や社会性を培い、児童生徒の自立を促し、学校や社会に復帰できるように指導や支援を行う場所　　所在：仲多度郡まんのう町宮田750-4（旧仲南北小学校）

● スクールソーシャルワーカー（SSWer）
定期的に学校訪問を行い、児童が抱える課題の解決や困難に対し、児童や保護者の話を聞いて、学校や関係機関とつないで支援を行う

● スクールカウンセラー（SC）
心理の専門家として、児童や保護者と面談し、心のケアやストレスの対処法について支援を行う

香川県

教育センター
○子ども電話相談　TEL：087-813-3119
○子育て電話相談　TEL：087-813-2040

まんのう町教育委員会だより　爽風　Vol.42
令和6年【2024】4月1日発行

編集後記

　クリスマスに知人から、クイズのようなLINEが届きました。「私は、クリスマスをここで味わいました」というメッセージに写真が1枚添えられています。十字架が見えるから教会だよね。でも日本じゃない…東南アジアかな。そう思いながら、さっそくGoogleカメラで検索してみると、答えは一瞬で出てきました。「マレーシア　ムラカ　マラッカ」――ほら、やっぱりね。

　便利な時代になったものです。知らないことや分からないことは、調べれば何でもすぐ教えてくれます。そして、望むと望まざるとにかかわらず、情報は次々と流れてきます。現代人が1日に接する情報量を、「江戸時代の1年分」「平安時代の一生分」などと言う人もいるくらいです。

　また、AI（人工知能）が出現してからは、その存在を脅威として恐れる声も聞こえてくるようになりました。「そのうち、AIが人間を超える時が来るだろう」「人間は、AIに仕事を奪われてしまうかもしれない」…等々。

　このような時代を、私たちはどのように生きていけばよいのでしょうか。

　今年1月1日の四国新聞に、政治評論家の寺島実郎氏と国際ジャーナリスト堤未果氏とが、「世界が直面する課題」や「日本の進むべき針路」について語り合った対談記事が掲載されました。その中で寺島氏は、「合理性を競えば人間はAIに敗れる。けれども人間は、必ずしも合理性だけでは動かない部分があり、利害や打算を超えた行動を取る。この『人間のすごみ』だけは、AIがどれだけ発達しても超えることができない」と述べています。

　一方堤氏は、ある大学生から「パレスチナとイスラエル、どっちが悪いんですか」と質問されたことを例に挙げ、「本当の危機とは、人間がAIのように『0か1か』で考え始めたときに来る」「AIの時代に『想像力』の価値を改めて意識するようになった」と語っています。

　真偽不明のまま溢れる情報。私たちはそれらを鵜呑みにすることなく、状況や目的に応じて本当に正しいもの、必要なものだけを選択する力を持たなければなりません。これからの時代を生きる子どもたちには、「人間」であることの強みを十分に発揮し、豊かでよりよい社会をつくっていってほしい――そんな願いのもと、学校現場では、彼らの将来に必須の力の一つとして、ＩＣＴを使いこなす力を育んでいこうとしているのです。

（Y.T）

表紙絵：北野　春月（満濃中学校美術部２年）

今月の一枚

次号予告（6月1日発行）

特　集　子どもを伸ばす魔法の力 ― 非認知能力

園・学校ウォッチング　満濃中学校・仲南こども園

発行責任者：まんのう町教育委員会　〒769-0313　香川県仲多度郡まんのう町生間415番地1
TEL（0877）89－7100　FAX（0877）89－8100